



それぞれに・・・個性の数だけ命の輝き

「発言」(中日新聞)より

個性の数だけ命の輝き

田村 愛美 (高校生：三重県津市) 16歳

殺人事件や自殺など胸を痛めずにはいられないニュースによく触れる世の中にはいろいろな問題があるが、命を粗末にするような事案が多い気がして本当に悲しい。

個性は皆違う。もし皆、性格が同じで同じような考えを有しているとしたら、誰もたった一つしかない命の価値は大きく下がるのではなからうか。皆違うからこそ、この世に生きるすべての人の命は尊いのだ。他人の個性を認めた上で、自分の意思を誰かに伝えようとすることは呼吸をするようなもので、生きている証しとは言えまいか。

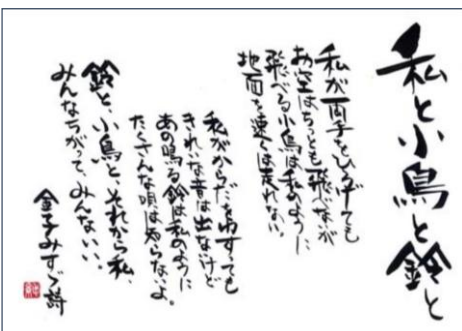
殺人事件や自殺に加え、地球上では戦争や紛争が絶えないが、より良い未来を築いていくには今を生きる私たち一人一人がそれぞれの命を大切にしていけるべきだ。その人にしかできないような命の輝きで、この世を照らせば素晴らしい世の中になると思う。

多様な個性受け入れる

樋田 千夏 (栄養士：名古屋市西区) 26歳

新社会人や新入学生が環境に適応できず、心身の不調をきたす季節に入った。

最近読んだ自己啓発本に「人間は動物と一緒に」と書かれていた。激しく動き回る動物もいれば、ゆっくりとしたスピードで生活する動物もいる。鳴き声もみんな違う。そんな個性に応じた見せ方をする動物園のように、人間の世界でも職場や学校で属する人それぞれの「らしさ」や「良さ」を生かしていかなきゃ。私はそんな感想を抱いた。私は物事の終わりの時間を考え、そこから逆算して物事に取りかかるタイプだ。のんびりする人には立ち、つい厳しい言葉を発してしまう。これでは人付き合いがうまくいくはずはない。相手だけでなく自分も疲れてしまう。のんびりしているように映っても、その人は一生懸命で時間がかかる分、私よりミスは少ないかもしれない。「こんな人もいるんだ」と受け入れることから始めようと思っている。



「人はみんな違って、いいんだよ。みんなそれぞれ個性があって、得意なことがあって、役割があって、それでいいんだよ。かけがえのない存在なんだよ」と解釈されています。それは、みんなそれぞれに素晴らしい個性があり、役割が与えられているということです。「みんな違う」何かを持っていて、それは「みんないい」ものなのです。みんながそれぞれの役割を果たす中で世の中はうまく回り、社会は進歩していきます。「みんないい」とは「みんな大切」ということなのです。それぞれの個性、考え方を尊重する、というのが豊かな社会を築き、人々が平和に暮らすために必要なことです。